

ミャンマー連邦共和国 西村壽鳳名誉領事

ミャンマーはこれからの国
できる限りの支援をしていきたい



ミャンマー連邦共和国（以下・ミャンマー）は、東南アジアのインドシナ半島西部に位置する。ポスト中国と謳われて久しいが、海外進出を考える企業にとつてどのあたりが魅力的なのかを、ミャンマー連邦共和国名誉領事館名誉領事に就任した西村壽鳳氏に話を聞いた。

——就任の経緯などは。

西村 愛知中高の同窓会長を一六年努めさせていただいておりました。

その総会で知り合った方から名誉領事の話をいただきました。

最初はよく理解もできておらず軽い気持ちで受けたのですが、名誉領事として活躍されている諸先輩がたに話を聞くと、『大変だよ』と聴かされましたが、後日、その言葉の意味を理解することになりました。

——大変な部分というのは。

西村 申請には八カ月ほどかかりました。

その際には履歴書から住民票など全ての身上書を提出しなければならず、就くことがふさわしいか徹底的に調べられました。車の運転ひとつとってもこれまで以上に慎重に運転するようになりまし

た。

——面倒なことを引き受けたなと思ったことは。

西村 大変さは感じておりませんが、面倒だとは思っていません。私は昔から役というものをできるだけ務めようと思っていました。そもそも私の父が、「人がお前を認めて依頼してくれる。お前がくだらない人間であれば、何もこない。断ったら次は来ないぞ、断らずに引き受けよ」と言っており、実際父は多くの役をこなしていました。そうしてきたことが、今回の名誉領事に繋がったものだと思います。

——ミャンマーという国について。

西村 ミャンマーという国は現在軍と政府が上手くバランスよくとっており、政治的には安定してきているように思えます。

一方、経済活動などについてはこれからの国であることは間違いないでしょう。経済特区や工業団地が各地につくられており、日々変貌を遂げています。

その中で、名誉領事としてお話を聞いてきますと、ミャンマーの方々が求めてきているのが何なのかわかってきました。

それは、製品ではなく技術を求めているということです。途上の中にある国は技術を得て発展していくものです。

現在の中国もかつての日本も先進国の技術をまねするところから改良を加えて発展してきましたか



名誉領事館開設・名誉領事就任式典の様子

ら。

私の役目は日本との友好の架け橋となるべく、ミャンマーの発展を手助けしていくことだと思っています。

一方でインフラについてはまだまだなところがあります。田舎の方に出不来と電気も通っておらず、高速道路があったとしても外灯もなく利用するには不便なことが多いです。

幸い私が訪れていた期間にはありませんでしたが、都市部でも停電があると聞いています。そのあたりの改善が進むほどにミャンマーという国に国際競争力が出てくるのではないのでしょうか。

——治安などについてはいかがでしょうか。

西村 人柄はすごくいいように感じましたね。

たまたま繁華街で食事したあと店に荷物を忘れてしまったのですが、気づいて戻ったところ荷物は残っていました。これは、ミャンマーが仏教国という部分もあるかもしれないですね。かといってどの国にも注意すべき地域はあると思

いますので、そのあたりは注意すべきでしょう。

——抱負をお聞かせください。

西村 やはり、日本とミャンマーの友好の架け橋となることですね。多くの人が喜んでもらえるように尽力して、日本と政治や経済だけでなく民間レベルにまで良

ミャンマーの現状を知るビジネスセミナー開催

五月二十九日、「ミャンマービジネス・投資セミナー in 名古屋」が開催された。

駐日ミャンマー連邦共和国大使館、在名古屋ミャンマー連邦共和国名誉領事館による主催で行われたセミナーの開催あいさつに、駐日ミャンマー連邦共和国大使館特別全権大使・トゥレイン・タン・ズイン閣下が「ミャンマーと日本は以前より良好となっております。セミナーを通じて日本とミャンマーの連携向上、ミャンマーのことを理解してもらいたい」。

また、名古屋商工会議所常務理事事務局長・内田吉彦氏が「愛知からは二〇社ほど進出してお

り、人口が五一〇〇万人を超え急成長しています。参加者の皆さんにより知ってもらえたらと思います」。

最後に在名古屋ミャンマー連邦共和国名誉領事館名誉領事・西村壽鳳氏が「ミャンマーはこれからの国、安倍総理からもミャンマーにかける思いも聞いていますので今後もセミナーの開催などを行い関係向上につなげたい」。

セミナーはミャンマーの経済の展望、ビジネス・投資環境、日本企業進出動向について説明され、ミャンマー進出を考える多くの参加者らが熱心に耳を傾けていた。